

○どこでも積極的にあいさつができる子 ○個性を生かし主体的・対話的に課題解決する子 ○進んで思いやりのある行動がとれる子

北大和小だより 6月号

令和4年5月31日
大和市立北大和小学校
〒242-0001 大和市下鶴間685
ホームページ <http://www.ed2.city.yamato.kanagawa.jp/s-kita/>



「梅雨の時期」

6月は「梅雨」の時期です。蒸し暑くなるころでもあり、冬服から夏服に替わる「衣替え」の時期でもあります。日本では5月の新緑の頃から梅雨の時期になり、知らないうちに新緑から夏の緑に草木も「衣替え」を済ませています。降雨の多い国なので当たりまえに「豊かな水」の恩恵を受けています。時には「毎日、雨ばかりで嫌だな」なんてつぶやいてしまったりします。

さて、視点を世界の国々に移すと、このような時期は一般的には「雨期」と言います。反対語として「乾期」があります。「乾期」と「雨期」が明確に分かれている地域が多くあります。

私は教員生活の中で3年間、アフリカ地域の日本人学校で働いた経験があります。そこは「乾期」には赤茶色の地面がむき出しになり日差しに照らされ草花は枯れて倒れていきます。時々雨も降る時がありますが乾期は半年程度続きます。そしてある日、スコールのような雨が降り、「雨期」が突然始まります。すると、もう生えてこないのではとさえ思えた草花が、あっという間に芽吹き地面が赤茶色から新緑の世界に一気に入れ替わります。その劇的な変化に「命の強さ」と「水の大切さ」を感じました。

6月は「梅雨の時期」どこか陰鬱な感じになりがちです。視点を変えて、豊かな水の恵みを受けているのは、命にとって大事な時期と考え、時には草木を見て想像をしてみると、明るい気持ちになり元気をもらえるのではないかと考えます。

ただ、最近は気候の激変化も叫ばれ自然災害のリスクも高まるのもこの時期です。防災についても気に留めておきたいものです。

校長

【熱中症対策】

学校では、「感染対策」に「熱中症対策」が加わり、児童と確認しながら「ゆっくり」「しっかりと」話をしていきます。PTA購入の「置き勉BOX」を活用し、必要な持ち帰り品に絞って荷物を軽減する、登下校での対策グッズを活用する時期がやってきます。熱中症対策の基本は、睡眠と食事を大切にして体調を整えることです。体調不良での登校はリスクを高めます。

「熱中症対策」優先で一方向を向き話さず歩く状況でマスクを外していくことも伝えます。

○登下校時の暑さ対策を工夫ください。

※帽子、冷タオル、うちわ、ハンド扇風機など、物の管理は各個人の責任で、利用の仕方については、お子様とご確認の上ご家庭の判断でご利用ください。

※日傘の利用については傘が周囲の子にぶつかるリスクがあり確認ください。

○水筒については衛生面に気を付け持たせてください。

□学校では健康観察、換気しながらの冷房、冷風扇、水分補給・マスクリフレッシュの指示、熱中症計(WBGT)の計測による活動の制限なども行ってまいります。